ゆえ、鎧兜を着て、汝何者ぞや、名を名乗れ、
りんくといひけるは、おのれは左馬助の婿、七郎俊盛
年十七歳、名乗りけり。能登守、笑ひて、俊健
なる若武者、汝、寄せて討つべけれども、ひぐく優さ
に助け参らせで、向後頼もしきぞと思ひて、風流を
流しけり。敵も味方も、戦疲れて、暫しいとましけば
誰か見えぬぞ、落ちつきぬ。今は、敵たるべき
などと、五、六人、今日の軍、新仕、侍、軍、
七郎、笑ひ、ひけるは、汝、脇、如何、
能登守を討つべしとは、けるぞと、笑ひけれども、七郎、
つきて、能登守、大力なれば、某、脇、ふるひ、離し、去れ、
肘を、討ち、しなぞ、なる、能登守、も、働くこと、叶はず、
けもの、生、後、首を、取るべしと、思ひ、腰、帯を、ゆるめ、
て、肘を、伸べて、ある、所、望、参げさせ、口、惜、さよ、
けるうを、なまけ、くく、梅檀、二、三、ばり、香ばしく、飾り
鳥、卵、中、より、其、聲、衆鳥、勝、て、とりて、武、
矢、猛、ひ、ぞ、ぞ、て、うけ、と、皆、く、感、げ、
敵、味方、ら、法、也、て、走、改、て、ぞ、て、法、教